科学技術高校
いきもの記
Vol.85 2023.7.18
生物教員 佐藤龍平

極小アメンボを発見！
ケシカタビロアメンボ

ジメジメとまとわりつくような暑さを感じる梅雨の６月、池ではアメンボたちが群がって我先にとメスと交尾しようとしている。蒸し暑さも相まって、こういった虫たちの出現に一気に夏らしさを感じる（蚊も大量に出始めた）。そんな賑やかな池のふちの一角の、一見すると何もいないように見える水面に目を凝らしてみると、**何やら「水面を動く点」を見つけた。**あまりに小さいので、肉眼では本当に動く“点”にしかに見えない。拡大してみると、それは**とても小さいアメンボの仲間**だと分かった。調べてみると、こいつの正体は**ケシカタビロアメンボ**というもの。この仲間は、2021年（石垣島）と2022年（愛知県）にカタビロアメンボとしては実に57年ぶりに新種が発見された、今ホットな（？）アメンボだそうだ。あまりに小さすぎて研究が進んでいないグループなのだとか。

ケシカタビロアメンボ（有翅型）
有翅型はとくに“肩”の部分が横に突き出ていて、“カタビロ”感が強い。

ワラジムシの体液を吸う様子
ケシカタビロアメンボが小さいのでワラジムシが巨大な生物に見えてくる。

猿江恩賜公園のケシカタビロアメンボ（無翅型）
Microvelia douglasi ６月13日

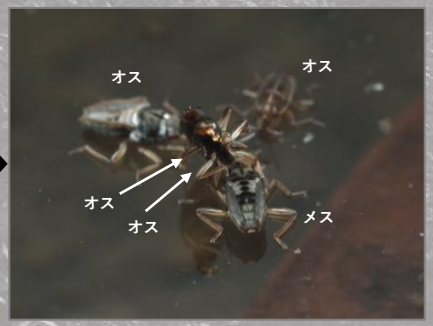
それにしても、**見た目がとても可愛いと思いません？**それもそのはず、アメンボやこのカタビロアメンボは、カメムシの仲間だ。**カメムシは全部顔が可愛い。**前にも言ったが、カメムシの仲間は水中や水面に適応した種が多くいる。タガメもタイコウチもミズカマキリもコオイムシもマツモムシも、全部“水生”カメムシの仲間だ（Vol.66参照）。中でもこのカタビロアメンボは、“極小”になることで、“水の上に浮く”という忍者のような生活方法を手に入れた。よく見る普通のアメンボは長い脚をもちスイースイーっと水面を移動しているのに対し、このカタビロアメンボは、**トコトコと水面を歩いていてとても可愛らしい。**無翅型と有翅型がいて、その出現条件はよく分かっていないらしい。飼育や継代は比較的簡単ということだから、飼って調べてみたら面白そうだ。

幼虫

①交尾しているペアの背後から、別のオスが現れた！

②あ！後ろから飛びついた！メスからオスを引きはがそうとしている。

③なんと！さらに別のオスまで現れた！



④さらにさらに別のオスまで現れ、１匹のメスに対して４匹のオスの奪い合いが始まった。